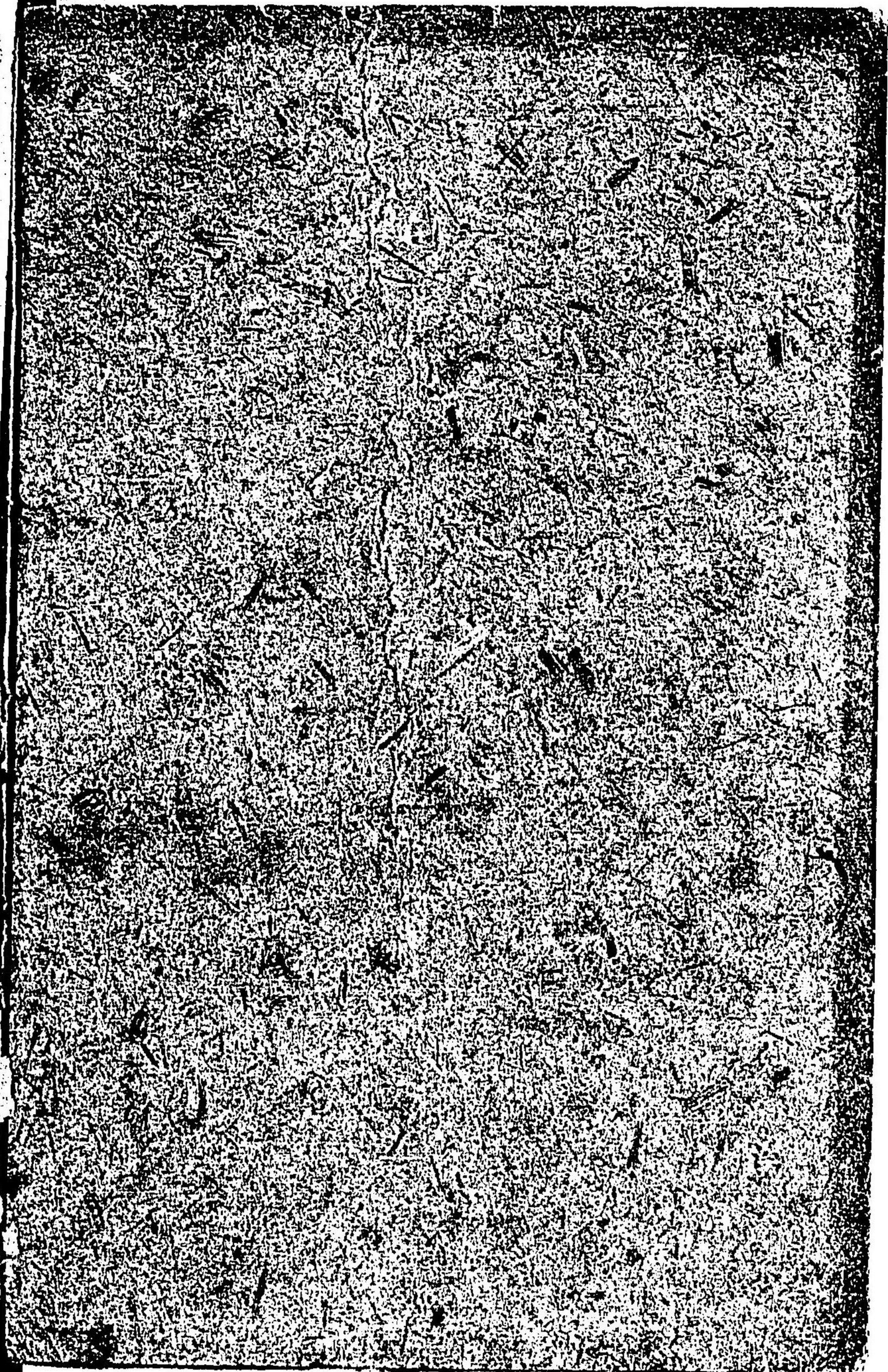
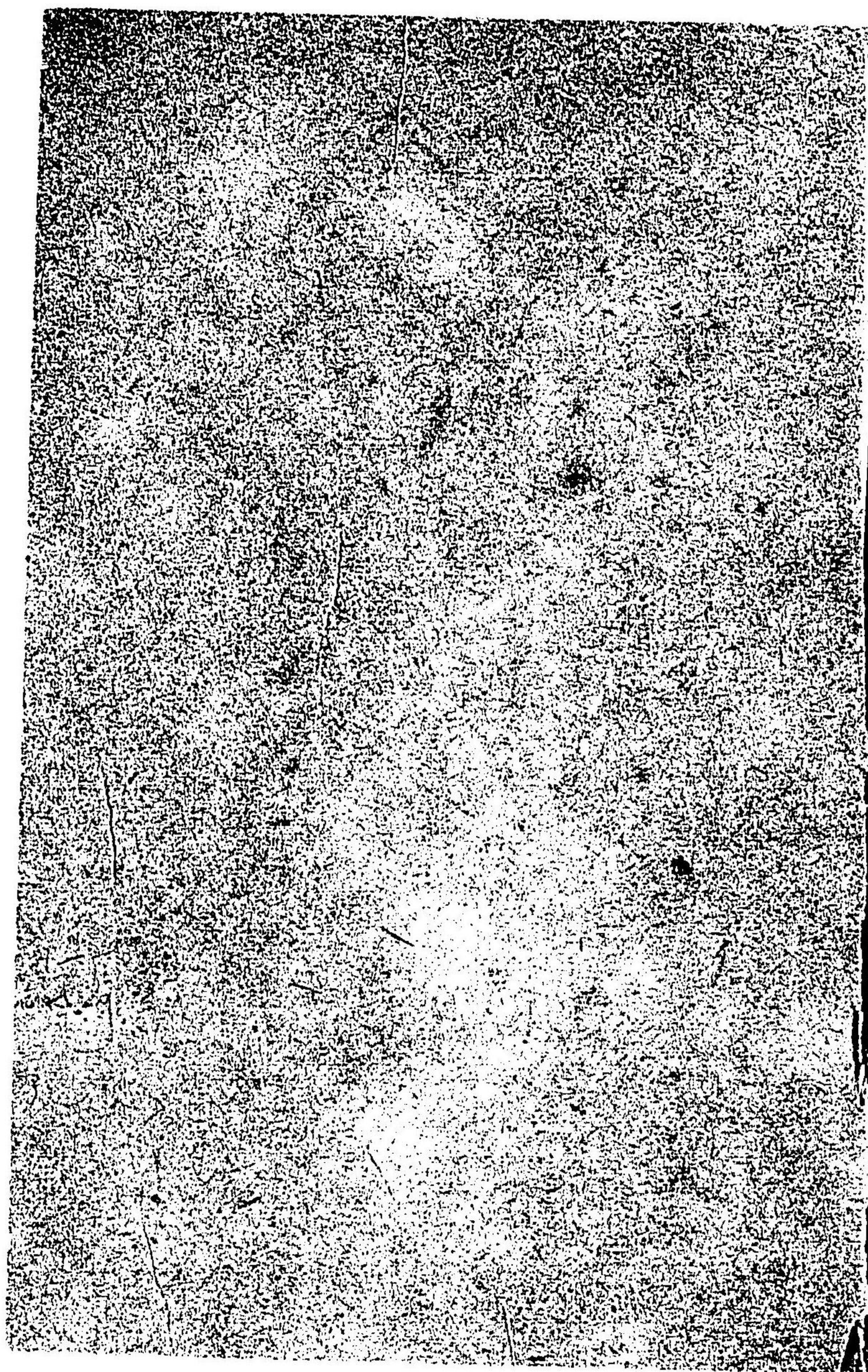


川中嶋軍記全





No 9588

欠

MISSING

真田の勇臣寛十兵衛  
 の越後境の中へ斬り  
 荒畑の上の臣江向  
 藤太門の千層の真  
 の渡り合覧の無双の  
 勇士あるの終る江向  
 と扱すやいし勝ふ来て  
 荒畑の境へ進み進み  
 一越後境を大に破る





武田勝頼へ小田勢  
 と戦争なむと  
 真田の諫めを用ひ  
 れば戦争屋敷に敗  
 走る。多くの戦臣  
 討れる。遂に小田  
 勢の爲ふ天目山に  
 討死せり





愛子石田三成權  
 加藤福島等太  
 權三成と刑す  
 寺吉徳川殿願  
 出故石田と佐和  
 山見徳川殿願  
 成是と徳川と  
 會津の上取謀



石田逆謀を以て大  
 坂城に諸家の軍人  
 を集る濃州関原  
 の戦場を説く徳川  
 殿へ上方の大衆を  
 同存寺議の上沼田  
 の城に留守に居る  
 信幸の室おきくめり  
 (密書に依り) 密中  
 の通路を塞ぐなり

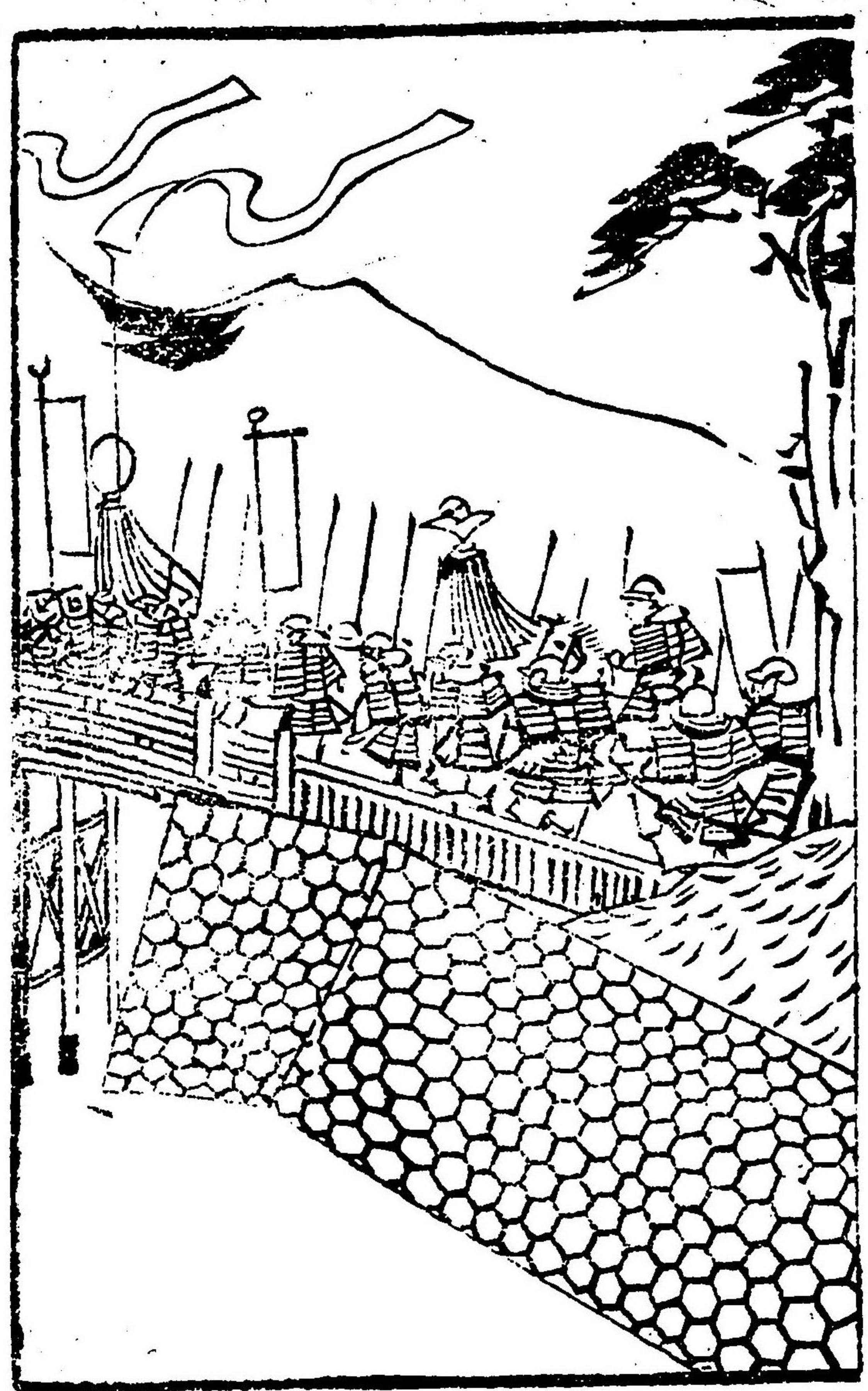






真田幸村の九度山村に居て  
 日々魚を釣るに暇下り感あり  
 詩人安達掃部之助まつて大坂方  
 の大九師と成り助勢をとふ





真田幸村の子長入助  
 共大坂城の守り  
 百五十人軍卒を率ひ  
 六文銭の旗印を執り  
 奮然大坂城を  
 真田信幸の室か  
 のが本田忠勝の旗  
 万夫も當り難  
 るれが守りの  
 幸村の関と通

大坂の城中の淀君  
 と始り本方頼公の腹  
 と戦争せんとす  
 給ふ真田幸村父子  
 と始り本村長門守  
 後藤又兵衛大野父子  
 其外城中のちんく日  
 夜軍議とあり一遂に  
 関東勢とて争戦す  
 小及ぶ事ありまゝなる  
 是落城の時なり





徳川家康公の大塚  
 出陣一給直有の  
 智謀地重火を伏て  
 剛東勢を産屋不角ん  
 とす家康公九死の  
 中一一生を得給ひて  
 かのよとて大久保者  
 志門と共ふアムふ  
 退れ給ふ



日



徳川家康公の真田  
 の為ふ辱々敗走  
 さまの計略は  
 入て危きと教  
 及ぶ彦左門と只入  
 雪中に隠れ給ふを  
 頼朝追ひ来りて  
 みて笑とゞと幸  
 退れ給ひ





大坂の城守は真田幸村  
 智恵を以て關東勢を破る  
 事なすといふをききて  
 軍を率へて後藤兼光の  
 勇士の心を討死ありて  
 今も城中に自教し給ふ



真田幸村の大坂城の  
危きを計つて秀頼  
公の御供と爲し船  
東へ薩州に至りし  
生と保つたなり



欠

MISSING





205104-000-0

特66-597

川中島軍記

沢久次郎

M21

EDV-0108

